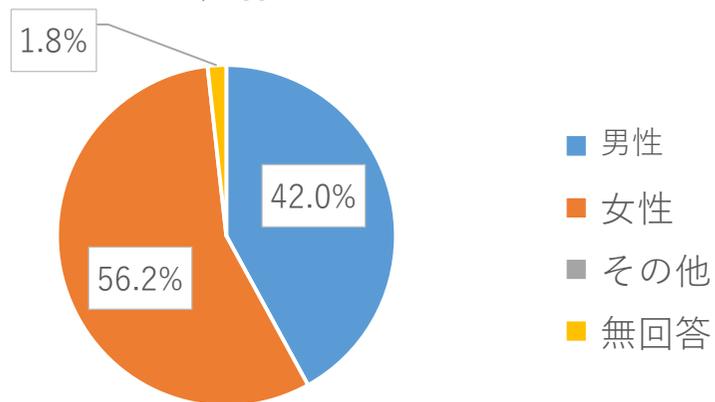


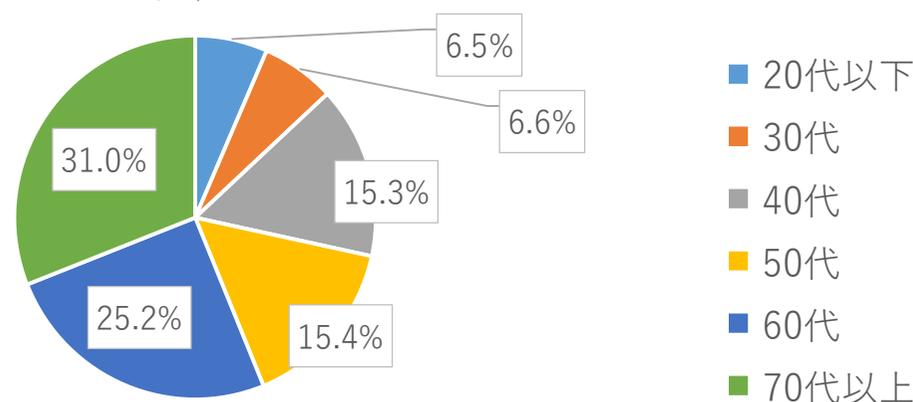
高知県全域の満18歳以上の県民2,000人対象に実施（無作為抽出）
 調査期間：令和6年8月26日～令和6年9月16日
 有効回収数：728人（有効回収率36.4%）

回答者属性：性別で比較すると男性より女性の方が回答率が高い。年代が上がるにつれ回答率も高くなり、70代以上の回答率が最も高い。

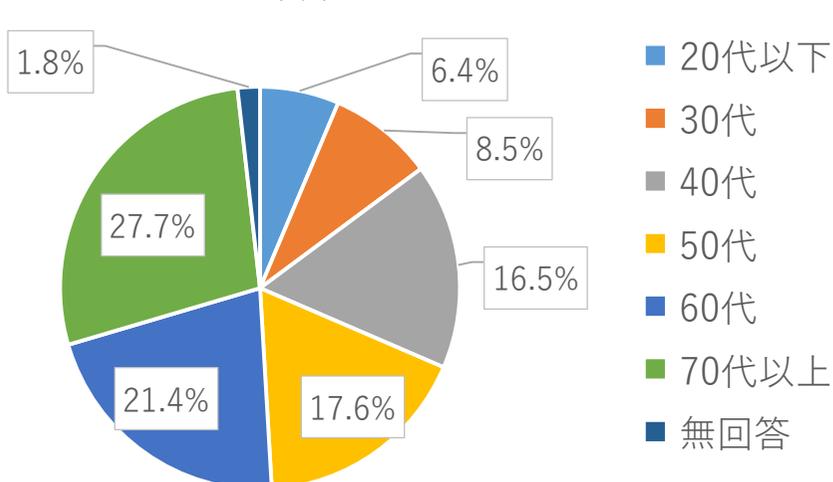
性別



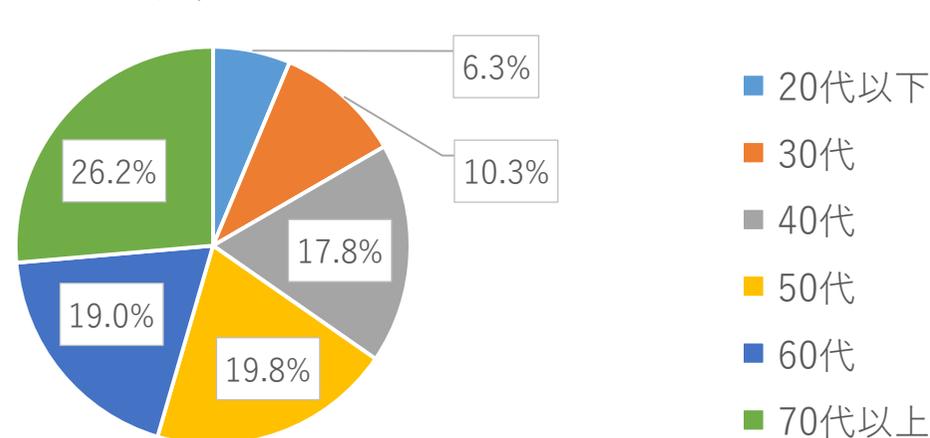
男性



年齢



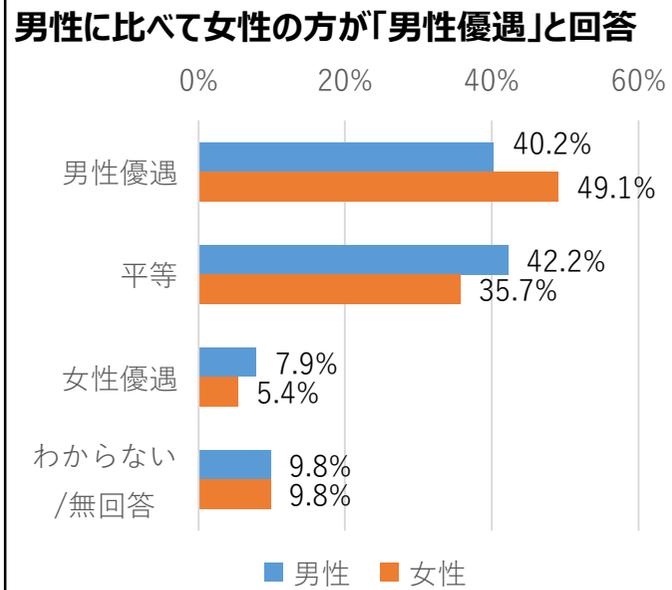
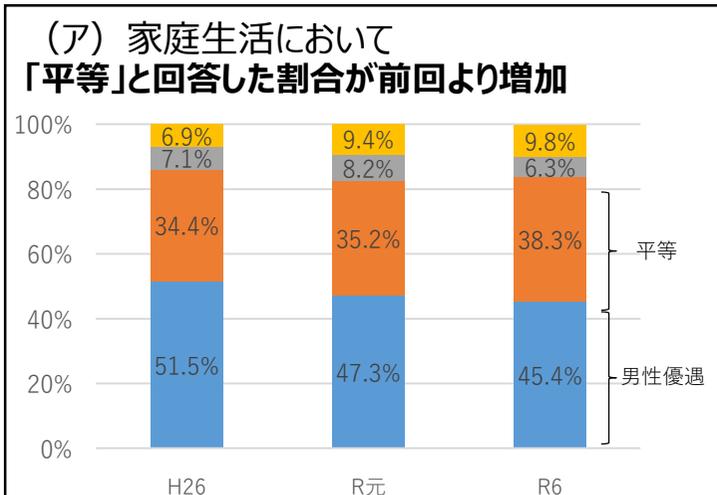
女性



1. 男女共同参画に関する意識について

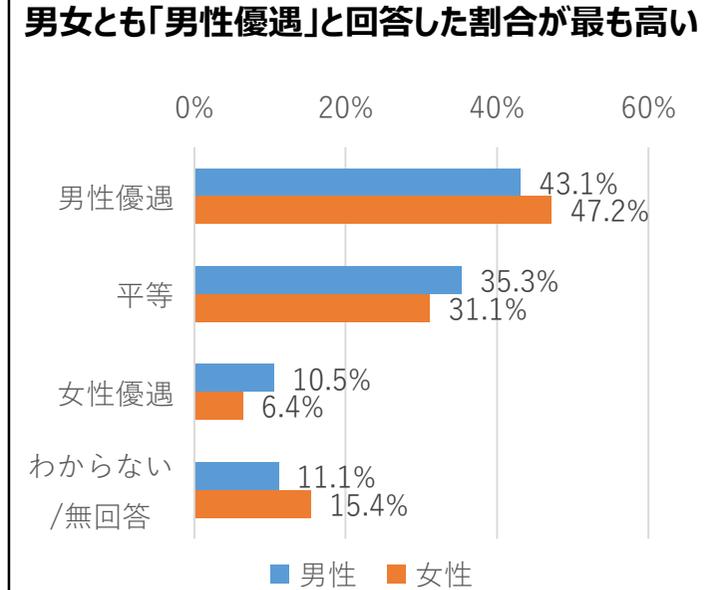
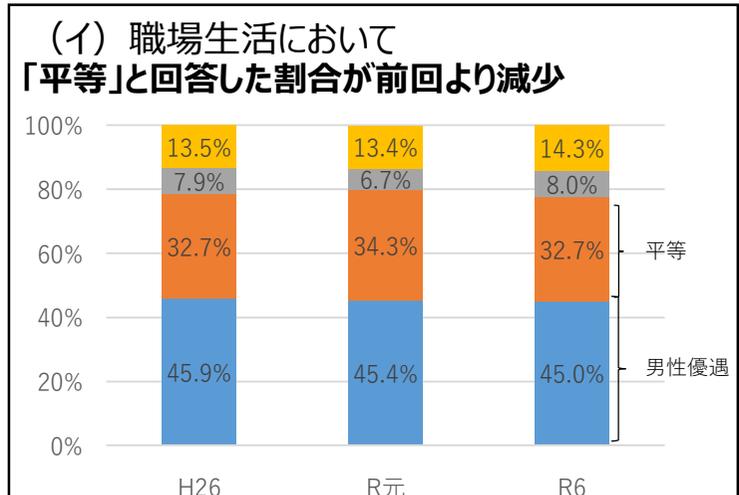
問1 男女の地位

※「男性優遇」…「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を足したものの。
 「女性優遇」…「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を足したものの。



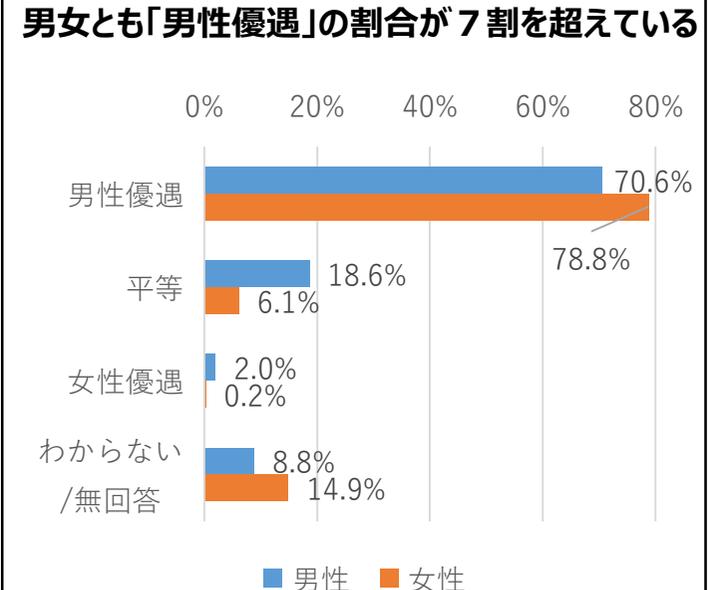
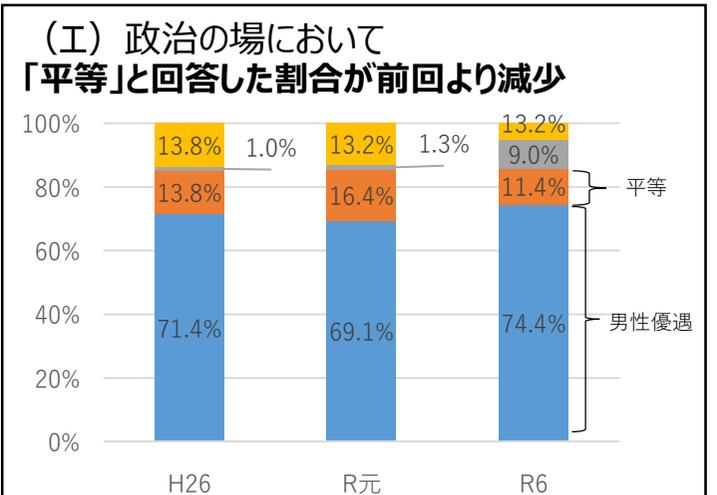
「平等」と回答した割合
女性：35.7% 男性：42.2%

「男性優遇」と回答した割合
女性：49.1% 男性：40.2%



「平等」と回答した割合
女性：31.1% 男性：35.3%

「男性優遇」と回答した割合
女性：47.2% 男性：43.1%



「平等」と回答した割合
女性：6.1% 男性：18.6%

「男性優遇」と回答した割合
女性：78.8% 男性：70.6%

2. 家庭生活について

問2 家庭生活における男女の役割分担

「家計」については、男女ともに「男性と女性が共同で家計を支える」ことが理想であり、現実も共同で家計を支えていると考えている
 ⇒家計については、男女間に認識の違いがなく、男女ともに理想と現実にギャップがない

「家事・育児の分担」については、男女ともに「男性と女性が共同で家事・育児を分担する」ことが理想であると考えているが、現実には男性は「共同で家事・育児を分担している」と考え、女性は「主に女性が家事・育児を分担している」と考えている
 ⇒家事・育児の分担については、男女共に共同で分担することが理想と考えているが、女性は理想と現実にギャップがある

〈理想〉男女ともに1位 「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」 50.1%（男性：46.4%、女性：56.3%）
 〈現実〉男性1位「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」 29.3%
 女性1位「男性と女性が共同で家計を支え、主に女性が家事・育児を分担する」44.5%

新 問3 ケアワークにあてる時間の男女差の理由

※ケアワーク…育児や介護のこと。

夫婦になると家事やケアワークにあてる時間に男女差が生じる理由について、
男性は「男性が働き方をかえることができない」から、女性は「男性が「女性がやること」と思っている」からと考えている。
 特に女性は半数以上が「男性が「女性がやること」と思っている」から男女差が生じると考えている。

	男性	女性
1位	男性の方が労働時間が長く、働き方を変えることができないから (38.9%)	男性が「女性がやること」と思っているから (50.9%)
2位	男性が「女性がやること」と思っているから (34.0%)	男性の方が労働時間が長く、働き方を変えることができないから (31.3%)
3位	女性の方が家事やケアワークに向いていると思うから (31.0%)	女性の方が家事やケアワークに向いていると思うから (20.5%)

新 問4 男性が家事・子育て等に積極的に参加していくために必要なこと

男女とも労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することが最も必要だと考えている。

また、次いで男性が家事などに参加することの抵抗感をなくすこと、周囲が当事者の考え方を尊重することが必要だと考えている。

	男性	女性
1位	労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること (50.3%)	労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること (47.7%)
2位	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと (35.0%)	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと (47.4%)
3位	周囲が夫婦の役割分担等について、当事者の考え方を尊重すること (22.9%)	周囲が夫婦の役割分担等について、当事者の考え方を尊重すること (31.3%)

3. 男女がともに働きやすい職場づくりについて

問5 ワークライフバランスについて

男女問わずライフステージの変化に応じた柔軟な働き方を求めているが、仕事を優先しなければならない現実と隔たりがある。

選択肢を一部変更しているため単純比較はできないが、「ライフステージの変化に応じて、その都度考える」が理想であると回答した男性が前回と比較して増加している（R元20.9%）。また、すべての年代で「ライフステージの変化に応じて、その都度考える」の割合が前回と比較して増加している。

	男性	女性
理想 (1位)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライフステージの変化に応じて、その都度考える (35.3%) ■ 「仕事」と「プライベート」をともに優先 (35.3%) 	ライフステージの変化に応じて、その都度考える(47.9%)
現実 (1位)	「仕事」を優先 (49.8%)	「仕事」を優先 (38.9%)

問6 男女がともに働きやすくなり、活躍するためにはどんなことが必要か

(1) 企業など職場において

働きやすくなり活躍するためには、**男女問わず、「仕事と家庭の両立について職場の理解が得られること」、「休暇・休業等の制度が整っており取得しやすい雰囲気があること」、「長時間労働の改善」が必要と考えている。**

	男性	女性
1位	仕事と、子育てや介護の両立について、職場（上司・同僚・部下）の理解が得られること (44.1%)	仕事と、子育てや介護の両立について、職場（上司・同僚・部下）の理解が得られること (45.0%)
2位	育児・介護に関する休暇・休業等の制度が整っており、取得しやすい雰囲気があること (40.2%)	育児・介護に関する休暇・休業等の制度が整っており、取得しやすい雰囲気があること (42.1%)
3位	長時間労働が改善され、仕事以外の時間を多く持てるようにすること (25.5%)	長時間労働が改善され、仕事以外の時間を多く持てるようにすること (18.3%)

(2) 行政の取組において

働きやすくなり活躍するためには、25～44歳の子育て世代は「子育てに関する経済的支援の充実」が必要と考えており、60歳以上は「介護サービスの充実」が必要と考えている。

年齢	行政の取組において必要なこと (1位)
20～24歳	定期的にご利用できる保育サービスの充実
25～44歳	子育てに関する経済的支援の充実
45～49歳	柔軟に預かってくれる保育サービスの充実
50～54歳	介護サービスの充実
55～59歳	柔軟に預かってくれる保育サービスの充実
60歳以上	介護サービスの充実

【全体】

- 1位 柔軟に子どもを預かってくれる保育サービスが充実すること（一時預かり、ファミリー・サポート・センターなど） 44.0%
（男性:32.0%、女性:32.3%）
- 2位 介護サービスが充実すること 29.8%(男性:27.8%、女性:30.8%)
- 3位 育児手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること 22.9%
（男性：27.8%、女性：19.6%）

4. 社会生活を営む上で困難な問題について

問7（副問1） 自身が経験したDVについての相談先 ※問7でDVを「したことがある」もしくは「されたことがある」と回答した248名に伺いました。
（DVをしたことがあると回答した人145名、DVをされたことがあると回答した人219名）

男女ともに「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が最も高い。
次いで「家族・親せき」「友人・知人」の割合が高くなっており、市役所や女性相談支援センターへ相談した人は男性0%、女性4%程度。

	男性	女性
1位	どこ（だれ）にも相談しなかった（62.2%）	どこ（だれ）にも相談しなかった（41.6%）
2位	友人・知人（21.4%）	家族・親せき（34.2%）
3位	家族・親せき（14.3%）	友人・知人（33.6%）

問7（副問2） 相談しなかった理由 ※問7（副問2）で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した123名に伺いました。

「相談するほどのことではない」「相談しても無駄と思った」という理由が多い。相談窓口の周知や早期教育、被害者支援などについて強化が必要。

	男性	女性
1位	相談するほどのことではないと思ったから（60.7%）	相談するほどのことではないと思ったから（43.5%）
2位	自分にも悪いところがあると思ったから（29.5%）	相談しても解決しないので、無駄だと思ったから（33.9%）
3位	相談しても解決しないので、無駄だと思ったから（23.0%）	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから（29.0%）

新 問8 過去5年間に抱えたことのある悩みについて

男女共に「特にない」が最も多いが、DV以外の困難な悩み・問題を抱えているのは男性と比較して女性が多く、悩みの内容も多様。
困難な悩み・問題を抱えている人の悩みのうち、男性は「自身の障害や疾病」が、女性は「家族の障害や疾病」が最も多い。

※1人以上が抱えたことがあると回答した悩み（悩みの選択肢12項目のうち）

男性（7項目）

自身の障害や疾病（12.7%）/家族の障害や疾病（11.1%）/経済的な困窮（4.2%）/離婚問題・家庭不和（2.9%）/配偶者以外の家族・同居人からの暴力（2.3%）/住居問題（0.7%）/その他（1.0%）

女性（11項目）

家族の障害や疾病（14.2%）/自身の障害や疾病（12.0%）/離婚問題・家庭不和（6.4%）/経済的な困窮（4.4%）/配偶者やパートナーの依存症（3.4%）/配偶者以外の家族、同居人からの暴力（3.4%）/住居問題（1.2%）/ストーカー被害（0.5%）/家族以外からの性暴力・性犯罪被害（直接的な被害）（0.2%）/望まない妊娠（0.2%）/その他（3.9%）

5. 男女共同参画の推進について

問12 用語の認知度

県の相談・支援施設については、十分に周知されていない。
特に高知市以外の市町村では認知度が低い。
県全域にどんな施設があるのか、どんな支援をしてくれる施設なのかについて周知することが必要。

『内容を知っている』	こうち男女共同参画センターソーレ	女性相談支援センター	高知家の女性しごと応援室	性暴力被害者サポートセンターこうち	にんしんSOS高知みそのらんぱ
高知市	27.3%	13.8%	6.4%	5.2%	0.6%
高知市以外の市	14.4%	10.0%	3.0%	4.8%	2.2%
町村	18.6%	14.0%	2.3%	5.4%	0.8%

今回新たに追加した男女共同参画に関する用語については、十分に周知されていない。
男女共同参画や女性の活躍を推進していくうえで今後も周知を図っていく必要がある。

『内容を知っている』	新 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	新 アンコンシャス・バイアス	新 ポジティブアクション	新 くるみん・えるぼし
男性	1.6%	6.5%	4.6%	3.3%
女性	4.6%	4.6%	6.1%	4.4%

新 問14 「男女共同参画社会」を形成していくために県や市町村が力をいれていくべきこと

「男女共同参画社会」を形成していくために、「保育・介護サービスの充実」が県や市町村が力を入れるべきことと考えられている。

また、選択肢を変更しているため単純比較はできないが、「政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」の回答割合が前回と比較して増加しており（R元13.7%）、求められている施策だと分かる。

年齢別では25～39歳は「男女ともに働き方の見直しを進める」、40代以上は「保育・高齢者・病院などの施設や保育・介護のサービスを充実する」に最も力をいれていくべきと考えている。

(全体)	県や市町村は力をいれていくべきこと
1位	保育・高齢者・病院などの施設や保育・介護サービスを充実する（30.9%） （男性：25.8%、女性：34.5%）
2位	県や市町村の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する（23.5%） （男性：26.5%、女性：21.8%）
3位	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める（19.6%） （男性：18.3%、女性：20.8%）